

令和5年度 組織・連携委員会だより

NO. 1

北海道PTA連合会

令和5年7月1日（土）に第1回委員会が開催されました。その内容をお知らせいたします。

組織・連携委員会では、令和5年度、次のような内容で研究を進めていきます。

1 研究テーマ

『ともに学び、行動し、連携するPTA活動や組織の在り方』

2 研究テーマ設定の理由

新型コロナウイルス感染症の流行や日常の平和が突如脅かされる世界の状況等、まさに予測困難な時代の到来を目の当たりにしている現在、わが国においては、少子・高齢化や人口減少などの社会構造の変化や人工知能（AI）の飛躍的な進化などによる急速な変化を迎えており、社会において必要とされる資質・能力が大きく変化している。

このような時代にあって、子どもたちには、一人一人が持続可能な社会の担い手として、その多様性を原動力とし、質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していくことが期待されているところである。

学校教育においては、子どもたちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新しい価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている。

このことは、これまでも「生きる力」の育成を目指し、学校教育において推進してきたところであるが、子どもたちを取り巻く環境の変化により学校が抱える課題も複雑化・困難化する中で、学校の創意工夫だけにその実現を委ねることが困難になってきている。

こうしたことから、PTAには、学習指導要領の理念である「社会に開かれた教育課程」を踏まえ、将来子どもが実社会で生き抜くための力を身に付けさせるために、学校と家庭・地域を実質的につなぎ、「地域の子どもは地域で育てる」体制づくりの中心的な役割を担うことが期待されている。

そのため、学校教育との関連を図り、教職員と保護者が共に学び合い、連携・協力により各種取組を推進していくとともに、その成果を学校・家庭・地域に還元していくことが重要である。そこで、学校・家庭・地域が一体となって子どもたちの教育を積極的に推進する役割を担う組織としての在り方を研究する必要があることから、上記のテーマを設定した。

3 研究の視点

研究テーマを追究するためには、委員会がこれまでの成果を踏まえ、各PTA活動の推進に役立つ有効な情報を主体的に発信することが重要であることから、次の2つの視点に基づき活動を進める。

- 持続可能なPTA活動・組織
- ポストコロナ時代のPTA活動

4 研究の内容

(1) これまでの成果と具体的な課題

① これまでの成果

- 時代の変化や各地区・各単Pの実情を踏まえ、持続可能なPTA組織の体制づくりや運営等に関し、様々な工夫・改善を図る動きが始まっている。
- コロナ禍は、これまでのPTA活動を見直すきっかけにもなり、オンラインを積極的に活用するなど、内容・方法等を工夫して活動する取組が進んでいる。
- 各地域の情報交流は、年間を通して様々な地域の活動や課題等を交流できる機会となり、PTA主導で地域を巻き込んだ活動の事例が紹介されるなど、大変有意義なものとなった。

② 具体的な課題

- 持続可能なPTA活動に向け、社会情勢や各地区・各単Pの実情に即したPTA活動の継続・改革・創造を目指す必要がある。
- 学校と家庭・地域による「地域の子どもは地域で育てる」体制構築のため、PTAが担う役割について考えていく必要がある。
- ポストコロナ時代のPTA活動の推進について考えていく必要がある。

(2) 今年度の研究の方向性

上記の課題の解決に向け、今年度は、次の3点を中心に研究協議を進める。

- ① これまでの成果と課題を踏まえ、コロナ禍での挑戦・体験・学びを止めないPTA活動の推進等の取組を生かし、ポストコロナで進化するPTAの姿についてさらに究明していく。
- ② 現研究テーマ・視点・具体的な取組について継続研究とし深化を図る。
- ③ 令和5年度札幌大会での提言について協議を継続し、サポートしていく。

5 研究推進日程

- 6月 9日(金) 正副委員長予定者会
*今年度の活動計画案について検討 他
- 7月 1日(土) 第1回委員会
*研究テーマの決定、研究推進の方向性(骨子)確認
*今年度の活動計画、具体的な活動内容についての協議
*各地区のPTA活動の交流と今年度研究テーマについての協議①
*道P札幌大会提言について
- 10月14日(土) 第2回委員会
*道P札幌大会における提言の準備、最終確認
*各地区のPTA活動の交流と今年度研究テーマについての協議②
*今年度のまとめに向けての方向性の確認 他
- 12月 2日(土) 第3回委員会
*道P札幌大会の報告と反省
*令和8年度の研究大会提言に向けた重点等の検討
*各地区PTA研究大会の報告と意見交換
*今年度の活動のまとめと反省
*次年度の方向性について意見交換と引き継ぎ事項の確認

6 令和5年度の委員会体制 【組織・連携委員会】 14名

次の方々が道P連組織・連携委員会の研究を推進しています。(敬称略)

- 委員長 ①廣瀬 堅一(副会長:小樽市)
- 副委員長 ②林 亨(副会長:上川北部) ④若林 徹(副会長:胆振東部)
⑤清水 達也(副会長:釧路管内)
○松橋 辰吾(副会長:道中校長会~北広島市)
- 教師代表 ○堀 智行(小樽市 校長)
- 委員 ②菅原 達朗(旭川市) ③篠田 幸伸(渡島)
④東出 敏幸(南空知) ④南川 達彦(胆振西部)
④川島 円(日高地区) ⑤本田 和春(オホーツク東部地区)
⑤澤田 公雄(オホーツク西部地区) ⑤栗原 利全(十勝管内)

*①②③④⑤は、北海道PTA連合会のブロックを表しています。

北海道PTA連合会事務局

〒060-0001 札幌市中央区北1条西3丁目STV時計台通ビル6階

TEL (011)251-6937 FAX (011)210-0929

Eメールアドレス info@hokkaido-pta.jp